

子どもと女性の健康相談室

96



福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター長

高橋 俊文氏

「卵子凍結」という言葉を皆さんはご存じでしょうか。卵子凍結は、女性が将来、妊娠・出産する可能性を残す方法です。

歳以降に妊娠する力Ⅱ 妊孕性(にんようせい)Ⅱが下がり始め、40歳で急速に低下します。現在、パートナーがいないが将来妊娠したい

は社会的適応による卵子凍結(社会的卵子凍結またはノンメディカルな卵子凍結)と呼ばれており、がん治療などによる妊孕性低下に

妊娠の可能性を残す

卵子は女性の卵巣内にありますが、卵子の数は年齢の増加に伴って減り、50歳でほぼなくなり、新たに作られません。一方、男性の精子は生涯にわたって作られます。女性は35

対して行われる医学的適応による卵子凍結(医学的卵子凍結)とは区別されます。卵子凍結の方法は、不妊治療で行う体外受精治療に準じます。卵巣から多くの卵子を採取するために、排卵誘発剤を用いて採卵手術を行います。採取した

もに液体窒素のタンクに保存されます。日本産科婦人科学会は、妊娠・出産を意図的に遅らせる社会的卵子凍結を推奨していま

社会的卵子凍結

せん。母体の高齢化により、母体と胎児へのリスクが増加するのが主な理由です。また、卵子凍結には、排卵誘発剤の副作用や採卵時の合併症があること、凍結卵子を用いた治療では必ず体外受精が必要であり、現時点では治療の成功率は高くないことなど、事前